

静岡県立こども病院における再発防止の取り組み

■患者にとって 最善の治療を患者・家族を含めたチームで協議

- *患者や家族と周術期におけるリスクを十分共有し、手術の実施について中止あるいは延期も含めた選択を患者や家族と行う。
- *主治医は基礎疾患を有する患者において、診療情報提供書の記載内容だけでは患者状態を的確に把握できないと懸念した場合、前医に問い合わせが必要な情報を収集する。
- *他院で1ヶ月以内に入院治療が行われていないか把握するシステムの構築。

■モニタアラームコントロールチーム（MACT）の設立：アラーム疲労防止、生体情報モニタ取扱い確認

- *始業時点検項目の見直しと実施。
- *生体情報モニタ装着に関する院内基準の策定。
- *テクニカルアラーム（誤作動や設定不備によるアラーム）削減への取り組み。
- *年に2回全病棟の生体情報モニタアラーム発生状況について外部業者へ調査を依頼し現状を把握する。
- *調査結果を現場へフィードバックし各部署における課題解決策を講じる。
- *策定した取り組みの遵守状況を確認するため、定期的な巡回（MACT ラウンド：月に1～2病棟）を実施する。
- *現場職員の不安や課題をヒアリングし、実効性のある解決策を構築する。

■生体情報モニタの取り扱いに関する学習会の開催

- *臨床工学技士や外部業者を講師とした、生体情報モニタに関わる職員への研修の実施（年1回開催）。
- *新人看護職員を対象とした、生体情報モニタの基礎および管理に関する研修の実施。
- 生体情報モニタの特性・仕組みの理解、および正確なモニタリングのための基礎知識・手順に関する内容を含む学習会の開催としていく。

■手順書・マニュアルの改訂と順守状況の確認

- *医療安全対策マニュアルの改訂と遵守状況の確認（職員への意識調査通じて順守状況进行评估する）。
 - 医療安全対策マニュアルに「生体情報モニタ装着基準」の明文化。
 - 始業時点検を必須化。
 - パルスオキシメータの取扱いに関する看護手順書の追加・修正（パルスオキシメータの単独使用は原則禁止とする）。

■学会発表を通じた知見の共有と風化防止

- *自院の取り組みを学会等で外部へ発表し、全国の医療機関における同様の事象の再発防止に寄与する。
- *外部発表を継続することで、院内における当該事象の教訓を風化させず、安全文化の定着につなげる。